

総合防災訓練本部運営訓練の結果報告について

1 災害対策本部会について

(1) 訓練内容

7階情報通信課からの情報及び災害対策本部会の決定事項等の情報の流れの検証

(2) 訓練結果

情報通信課から報告される様々な情報のうち、本部会の判断を求める情報と本部会を通さずに直接災対各部へ依頼すべき情報の判断基準が明確でないため、情報の処理に手間取った。また、情報通信課（701・702・705・706会議室）の内線を増設していなかったために、災対各部から情報通信課への報告が滞ってしまった。

今回の訓練結果から得られた課題に対して、受信した情報の仕分け方法及び災対各部からの情報の流れを見直して、対策を判断するためのスピードアップにつなげていく。

2 非常用電源稼働訓練について

(1) 訓練全体の流れ

- | | |
|---------|---|
| 8 : 30 | 総合防災訓練開始 |
| 10 : 00 | 庁内の商用電源をカットする。
非常放送設備を使って現状を庁内に放送する。
東京都防災行政無線の発電機の稼働及び通電状況を確認する。 |
| 10 : 05 | 屋上の可搬型発電機を稼働させ、非常用電源を供給する。 |
| 10 : 15 | 地下の非常用発電機を稼働させ、非常用電源を供給する。 |
| 10 : 20 | 本部員及び議員は、地下の発電機及び屋上の発電機を巡回し、通電状況を確認する。 |
| 11 : 30 | 総合防災訓練終了 |
| 11 : 47 | 商用電源復旧 |

(2) 新館屋上に設置した可搬型発電機による非常用電源の動作状況

① 訓練内容

可搬型発電機の設置及び操作訓練

② 訓練結果

庁議室、総務課・防災課執務室及び7階会議室への通電を確認した。

(3) 庁舎内の非常放送の動作状況

①訓練内容

非常放送設備（地階火災受信盤・5階火災副受信盤）及び一般放送設備（5階放送室）の非常放送試験

②訓練結果

	商用電源	非常用電源（地下）
非常放送設備 （地階火災受信盤）	○	○
非常放送設備 （5階火災副受信盤）	○	○
一般放送設備 （5階放送室）	△（緊急放送で一部受信不能箇所あり）	× （電源未供給）

(4) 地下非常用発電機について

① 仕様

昭和53年設置

出力 500KVA

水冷式ディーゼルエンジン（燃料消費量100L/時（A重油））

オイルタンク3,000L、連続運転時間30時間程度

② 稼働状況 10:15～11:45（90分間）、負荷30KW、

	発電機室室温	冷却水温度	潤滑油温度	燃料消費量
10:15	16℃	26℃	42℃	
11:45	25℃	72℃	73℃	36L

③ 非常用発電機から供給されている電灯及び動力等

【共通】 消防設備（屋内消火栓、ハロン消火、自動火災報知機）、非常照明バッテリー、機械警備、各種警報電源、新館西側エレベーター及び新館東側2基と本館1基の3基の内任意の1基及び西側エレベーターホール照明、新館東西階段室内照明

【新館】 地下1階 第1、第2電気室内の各種電気盤類等、照明及びコンセント、各種ポンプ、電気室・蓄電気室等送風機、防火シャッター

1階	EPS（電気のシャフト）内コンセント、厨房冷蔵庫
5階	区長室、副区長室、区長応接室の照明、庁議室、 総務課、防災課の照明及び一部コンセント
6階	電話交換機室内の機器、照明及び一部コンセント
7階	701、705会議室の照明及び一部コンセント
R・PH階	冷却塔、ELV機械室内送風機

(5) 区情報システムについて

①訓練内容

非常用発電機を利用した稼働訓練に際しては、商用電源の停止に伴って情報システムを即時に停止できないため、計画停電を想定したあらかじめのシステム停止処理を実施した。停止処理は、システムの規模が大きいことから、およそ2時間30分を要した。システム停止及び起動の経過は次のとおり。

7:00	職員（4名）及びシステム運用事業者（11名）参集 システム停止処理開始
9:33	全システム停止確認 CVCF(定電圧定周波数装置)停止
10:00	商用電源停止
10:15	非常用発電機稼働開始
11:47	商用電源復旧
12:20	CVCF始動。システム起動処理開始
16:10	ハードウェア部品交換
19:38	全システムの正常起動確認

②障害の有無

商用電源復旧後のシステム起動処理中に、ネットワーク部品の一部に不具合が発生したが、当日に部品交換を行い正常に戻した。

③今後の課題

本区の情報システムの停止及び起動は、いずれも平均3時間を要するため、できる限りシステムの継続運転ができるような電源の確保が求められる。

そのため、今回の訓練では、地下の非常用発電機から送られる電気の品質がシステムの稼働に適しているかを測定し、今後のシステム継続運転に利用できるかを調査した。その調査結果は、現在分析中である。